

がんばろう 南三陸町 復興第12号

南三陸マイタウン情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田150-84
TEL(46)3069
後援:
志津川広報センター



先月、南三陸ホテル観洋にて、26日志津川地区・27日歌津地区・28日戸倉地区入谷地区の「南三陸町敬老会」が震災後初めて開催された。対象となる77歳以上が2511名を数え、志津川が1100名・戸倉が328名・入谷が339名・歌津が744名、100歳以上は12名だった。26日開催の志津川地区には百歳以上が5名、被災後の現在も元気で、南三陸町で暮らしている。今年から敬老の仲間入りとなる77才の方々への「祝詞」は、志津川地区の集まった300名を代表して、上の山の工藤祐允さんが、町長より段上で送られた。

会場では久しぶりの再会に、抱きあい「無事でもよかった」と、あの津波をなんとか乗り越えた皆さんの歓喜の音が、テーブルごとに聞こえた。お祝の演芸披露では、町内の踊りの会の皆さんが、被災後の稽古の成果を発表し、高橋さんのシンセサイザー演奏「ひころの里」では、在りし日の南三陸町の映像が共に流された。南方仮設で支援で踊りの指導をなさっている、伊藤愛子さんも「白虎」を勇ましく舞い、参加なされた方々に元気をくれた。

んでいきましょう」をテーマに絵の作成をし、その絵がステージのバックを飾った。来賓として津山総合支所長さんが布施市長の挨拶を代読し、南三陸町の西條副議長、登米市の議会議長、集まった津山町民、南三陸町の被災された皆さんを前に「一緒に頑張りましょう」と元気を送った。「ミュージシャンう〜み」のコンサート直前に佐藤町長も駆けつけ、登米市民の皆さんへの感謝の言葉を述べた。



9月22日登米市津山総合体育館に於いて、「言えなかった、ありがとう。南三陸から感謝を込めて。9.22コンサート」が、NPO みらい南三陸、登米市サポートチームにより開催された。ゆかりのあるミュージシャン5団体が、無償による出演、応援に集まった。開会のはじめに代表の下山うめよさんは挨拶で、被災後に避難所として生活し、登米市津山町の皆さんにお世話になった事を振り返った。登米市のサポートチームの橘さん、菅原さんが紹介され、武蔵野大学の学生支援、そして長野県の「箕輪中学校」の校長先生も駆けつけて下さった。箕輪中学校の生徒会が、文化祭で被災地に何かをしたいと「希望を失わず前に進

人工流出が加進する南方仮設 登米市の南三陸町仮設

南三陸町の人口は、この1年半で約2400人減少した。内訳は死亡者数から出生数を差し引いた自然減が約1000人。400人が転入したが、1800人が転出し、社会減は1400人に上った。震災前の1万7666人(23年2月末)の10%が町を離れたことになる。最も多い転出先は、登米市で667人。次いで仙台市394人、気仙沼市122人、石巻市67人などとなっている。町民税務課によると、転出は昨年3~7月がピーク。毎月100人以上にのぼっていた。「ライフラインが機能しているところで一日も早く暮らしたいという人や、子供のために」という人が多かったという。今年8月末現在の人口は1万5309人。町は震災から10年後の33年には1万3365人まで減少すると予想。復興事業や各種施策で1万4555人とどめることを目標に掲げている。集団移転の造成、災害公営住宅の建設は、町内でまだ始まっていない。本格的な復興事業はこれからという状況の中、このまま待つのか、町外に移転するか、悩む人たちが出てきている。復興事業のスピードを上げるとともに、雇用対策を進める必要がある。

戸倉防犯協会一時解散

戸倉防犯協会連合会「南三陸防犯協会戸倉支部」は、この10月をもって一時解散と決し、その旨を10月5日南三陸警察署二階会議室で行なわれた、南三陸地区防犯役員会の席上で、戸倉防犯協会佐々木由弘会長から報告がなされた。戸倉防犯協会連合会の役員及び実働隊は17名で運営されていたが、震災などで4名が死亡、7名が戸倉地区外または仙台・一関・登米市などの町外に移転した。地域的構成が以前とは全く異なり、活動運営が極めて難しい現状で、戸倉防犯協会の一時解散はやむおえず、「再結成は次世代に託すしかない」との判断をした。会計予算の残金については、将来の戸倉地区を担うであろう子供達にと、戸倉小学校ならびに戸倉スポーツ少年団「少年野球チーム」など、それぞれに寄付された。

9月定例議会① 9議員が質問

◆三浦清人氏

①女川原発有事の際の町独自避難計画策定を
②防災集団移転事業で、土地の賃借料を20~30年間無料にすべき
③戸倉地区高台移転予定地で発見された産業廃棄物の調査を急げ。
町長 ①国、県の調査、指導を仰ぐ必要がある。UPZ(緊急時防護処置準備区域)は戸倉地区、林、大久保まで、町単独での避難は難しい。②宅地を分譲する人には固定資産税の負担がある。無料にした場合は不公平感が発生するため、借地料は有料とし条例で貸付率は4%だが、被災者支援の観点から固定資産税率1.4%を採用したい。環境対策課長 ③現在、県警が捜査している。町は今月中に環境調査のサンプリングを行う。

◆大瀧りう子氏

①27年度に開院する新公立志津川病院の医師確保対策は
②今後の医療圏の考えは
③福島第一原発事故後の放射線対策は万全か。
町長 ①医師の招へいは困難を極めている。修学資金貸付制度には、23年度は応募がなかった。本年度はこれから募集する。②本年度、2次医療圏の再編が計画されている。気仙沼、登米、石巻3医療圏の統合が望ましい。医療機関の連携、医師招へいがより良い方向に



進む。③1時間当たりおおむね0.07マイクロシベルトで、汚染状況重点調査地域に指定されていないが、仮設住宅などを中心に67地点の空間線量を定期的に調査している。自家製の物は未検査なので、県から貸与された設備の調整後、受け付けを開始する。

◆菅原辰雄氏

にぎわいのある町再生への必須条件である市街地、商店街形成は、どのような方策で臨んでいくのか。
町長 従前の市街地は産業、商業、観光の用地として盛り土など造成する。交通環境の面からも要衝地点となる。高台造成地は面積の制限もあり、大きな敷地を要する事業所が連なるような商店街形成は難しい。旧市街地は災害危険地域を予定しており、住居兼店舗の商店街形成はできない。旧市街地の商業ゾーンには道の駅なども計画しており、テナントなどの施設も考えていく必要がある。高台移転で店舗兼住宅の人には軒を連ねてもらいたい。現在、地域商業復興計画策定のため、学識経験者、町、商工会、商工業者が協議している。



◆千葉伸孝氏

①町職員特別採用で人口流出阻止を
②職員の再任用は継続するのか。被災して職を失った町民も多い職員給与のカットはしないのか
③今公立

志津川病院に人工透析施設の設置を。
町長 ①法律により共通試験の成績などで採用しなければならぬ。優秀な人材を確保するため、広く人材を選抜する必要もある。一時的に行政需要が増えているが、多くの正規職員の採用は復興をなし終えた後、余剰人員を抱えることになる。今、求めているのは即戦力だ。②再任用は継続していく。職員給与のカットは考えていない。この1年半、職員は不眠不休で頑張っていると評価している。③新病院で透析を行うことは最適だと認識しているが、医師の招聘が課題だ。

◆山内昇一氏

①防災集団移転の早期着工を
②再生可能エネルギーの導入を考えているか。
町長 ①用地取得に地権者の承諾を得ることが、早期着手の鍵だ。現在、事業計画を作成しているが、国交省の事前協議を今月までに全20地区のうち17地区で完了させる。秋には全地区で具体化のめどがつく。②総務省の実証調査事業で未利用の林地残材などを活用したペレット燃料化を検討しているほか、国土交通省の再生可能エネルギー活用事業で、太陽光や風力、木質バイオマスなどの事業性、経済性、実施体制などを検討する。個人住宅への太陽光発電システム導入費の一部補助を、今定例会の一般会計補正予算に計上している。



* 残りの4名は復興第13号に引き続き掲載します。